

科目名：図画工作（演習） （演習・2単位）		担当教師名： 佐藤 鷹 通	使用テキスト：出版社名・テキスト名 萌文書林「保育をひらく造形表現」・榎 英子
授業の到達目標及びテーマ： 保育の教育現場を想定し、様々な造形表現の実習や制作活動を通して子どもの造形活動を支える基本的な知識や技能を習得する。			
授業の概要： 絵画、デザイン、立体造形、色彩等に関わる様々な教材研究や実習を通して基礎知識と表現力を探求しながら身につけ、教育現場で展開する子どもたちの活動内容も念頭に置いて授業に向かう姿勢を身につけさせる。			
回	項 目	内 容	
1	図画工作について	・子どもたちの図画工作に関わる指導に必要な基本的な事項（子どもの年齢による表現の特徴、喜びを感じさせる授業ほか…）を授業を通して学び取ることの重要性について	
2	線の魅力について	・子どもたちの図画に表現された大人の絵に観られない生き生きとした線の純真さ、魅力特徴を授業を通して自分でも体感し、線に表れる表情を感じ取る力を養う。	
3	各種技法 1	・表現に役立つ様々な技法（コラージュ、フロタージュ、スクラッチ…等 11 種類の技法）を 8cm 四方の正方形の枠内に施す。これらの技法一つ一つは後々活用することになる。	
4	各種技法 2	” ”	
5	風景画（デッサン）	・学院向かいの「平和公園」に植えてある様々な樹の中から自分の好きな樹を選び、鉛筆デッサンする。ここでは樹の造りと葉の固まりに注意を向けさせる。	
6	”（ ” ）	・前の時間に描いた樹の線や形、固まりに足りないものや新しく感じたことがあったら躊躇することなく描き込んでいく。この姿勢が子どもたちの絵を理解しやすくしてくれる。	
7	”（着色）	・着色に関しては、公園に出る前に絵具、パレット等について基本的な使用法を話しておく。着色態勢に入ったら、学生一人一人を巡回しながら各人の個性を読み取る。	
8	”（完成）	・巡回指導については、学生たちの幼稚園等教育実習の時に子どもたちへどのようなアドバイスをしたらいいか、参考になるような言い方を考える。	
9	コラージュ（構想）	・コラージュは幼稚園、保育園、施設どこの職場に勤めても子どもたちが喜んで活動してくれる課題の一つであるから構成、バランス、統一と変化という基本を学ぶ機会になる。	
10	コラージュ（制作・完成）	・前の時間の構想は貼る素材がなんであれ、画用紙上に適切な大きさに切った素材を置き移動させバランスがしっかりとれたら糊付けして仕上げる。	
11	スパッタリング	・スパッタリング（霧ぼかし、網ぼかし）はコツが会得できると、幼児でも誰でも綺麗に制作できる。ステンシル（型紙）と併用すると美しい絵になる。	
12	スクラッチ	・スクラッチ（ひっ掻き技法）は予め画用紙にクレパスや水彩絵具で下絵を描き、その上を黒のクレパスで塗りつぶした後ニードルでひっ掻き暗闇の中に下絵を浮かび上がらせる。	
13	スタンピング	・これは絵具の着くものなら何でもよく木目、布などいろいろな物質を探ることが大切。どの技法であれ、自らの目で注意深く周囲を見詰め活用に値するものを見つけるように。	
14	にじみ	・にじみは日常生活の中で目にすることの多い現象なので制作も簡単。更にレベルアップを目指し絵具と水分の調整と画用紙に含ませる水分量に変化を持たせる。	
15	フロタージュ	・フロタージュは誰もが小学生の頃、学校で十円玉とかの上に薄い紙を置いてその上を鉛筆等で擦り写し取る遊びだが、下に置くものを葉の葉脈、樹の年輪ほか多数考える。	
参考書・参考資料等： 教科書を主に過年度卒業生の作品や、掲示した自分たちの作品等を参考にして次の制作に生かしていく。			
学生に対する評価方法： 筆記試験は実施せず、ノートや表現された作品と平常点を総合して評価する。			